



第六十六号

会報浄土真宗太陽の会

平成30年7月 西日本豪雨災害

この度の平成30年西日本豪雨災害により犠牲になられた方、被災された方々には心からお悔やみとお見舞い申し上げます。

7月6日から8日にかけて西日本を中心に降り続けた豪雨により福山のまちも多くの被害がありました。この雨は、西日本まで南下した前線と6月29日に日本の南で発生した台風第7号が7月4日に日本海で温帯低気圧に変わった影響により暖かく非常に湿った空気が供給され続け、全国の広い範囲で大雨となりました。河川の氾濫、浸水被害、土砂災害等が発生し、死者、行方不明者が多数となる甚大な災害となりました。未だにその爪痕を大きく残しライフラインや交通障

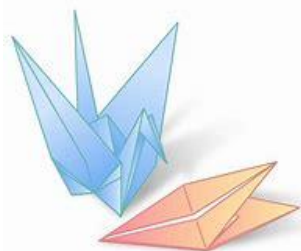
害などいまだに復旧されていない地域もあります。(会報作成日現在)

「無明長夜(むみょうじょうや)の燈炬(とうこ)なり知眼(ちげん)くらしとかなしむな」親鸞聖人晩年の『正像末和讃』の一節になります。いつあけるか分からない暗く長い夜の中であっても、私を照らす大きな灯がある。そうであるから知恵がなく、愚かさをさけることのできな



い身であっても、その自分を悲しむことはない。仏の知恵に照らされている私たちは、たとえ受け止められないほどの過酷な現実が目の前に迫ったとしても、困難な状況を生きるしかなくても、生きる意義と自身の尊さを失わずに生きていくのだと親鸞聖人は伝えて下さいます。

酷暑とも呼ばれる中、被災地区にお住いの方々のご苦労もひとしおだと思いますが、どうぞお心とお身体をお大事にして頂き、強いお気持ちでこの苦難を克服して頂きたいと思えます。皆様は決して一人ではありません。被災地の一日も早い復旧、復興を心より念願いたします。



盂蘭盆会

8月12日

(土) 10時より
太陽の会本堂
にて「盂蘭盆会
合同追悼法要」
が執り行われ
ました。今回は

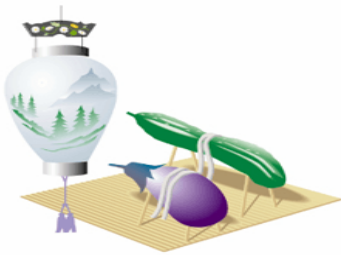


7月の災害で
中止になった三原太陽霊園の合同追悼法
要も併催となり大変多くの会員様にご参
拜いただき、改めて私たちの命の尊さ・
儚さを考えさせられる法要となりました。
酷暑が続きます最中、ご参拝いただきま
した会員の皆様、心より御礼申し上げます。



お盆

仏教行事の中でも最も一般化したのが、お盆でしょう。盆踊り、盆燈籠から盆休みまで、正月と並べ、民間歳時習俗の兩大関といわれて親しまれている年中行事です。テレビでは毎年、墓参りの風景と帰省ラッシュを映し出しています。お盆は、正しくは「盂蘭盆」（ウラボン）といい、サンスクリット語「ウンバナ」の音写で、逆さにつりさげられるような非常な苦しみという意味です。『盂蘭盆経』というお経によると、お釈迦さまの弟子・目連尊者の母親が餓鬼道に落ちてそのような苦しみにあっていた時にお釈迦さまの教えに従って供養したところから始まったとされ、
仏さまや先祖のご恩に感謝し、
力強く生きることを自覚する行事となりました。



お布施の心

全国的には8月がお盆ですが、7月がお盆の地域もあります。日頃はなかなかお寺との付き合いが多くはなくとも、お盆には多くの方がお寺や僧侶と接点を持ちます。お盆には多くの地域でお盆参りがあり、法事などの法要を除くと、一年のうちでお盆には必ずお参りをしていたり、なくてはと考えるおられる会員様もいらっしゃるでしょう。お参りをした際には、お勤め後、お布施をいただきますが、お布施にはどのような意味があるかご存知でしょうか。

布施には、もともと仏教で説かれた六波羅蜜の行の一つです。波羅蜜とは、迷いの岸から(此岸)からさとの岸(彼岸)に至るために修する行のことです。その一つが布施です。誰かに何かを施すことをいいます。一般的には施すものは財産・金品だと考えられています。



では、誰かに何かを施せば布施になるのかというと、それほど簡単ではありません。

会社の出張や、少し離れたところに出かけて、その土地土地の美味しいものをいただくことが、楽しみの一つです。しかし、一人だけで楽しむのも少し気が引けるので、家族にもお土産を買って帰ります。最初のお土産は喜んでくれていたそのお土産も回数が増えるとそれが当たり前になります。せっかくお土産を買ってきたのに、という見返りを求める心がふつふつとわき上がります。



布施が波羅蜜として、真実の行であるためには、このような見返りを求める想いが消えなければなりません。「私があげた」「あなたにあげた」「何をどれだけあげた」という、

三つの事柄がすべて消えてなくなれば、布施波羅蜜といえるでしょう。清らかな心といえるでしょう。

逆に、私が・あなたに・何をということにしつこく執着していると、それはまったく清らかではありません。

布施というのはなかなか難しい行なのです。

クイズ浄土真宗

Q 弔辞で使う表現は？

- ① 冥福を祈ります
- ② 浄土に生まれられた
- ③ 昇天された

葬儀のときに、故人の業績や人柄を讃えて述べられる弔辞には、決まり文句のようなものがあります。たとえば「こんなに早くお別れするとは思わなかった」「とか「心からご冥福をお祈りします。」といった表現。また、「昇天された：」「安らかに眠りください。」といった表現も浮かんできます。しかし、浄土真宗の葬儀の内容からすると、矛盾が生じたり、チグハグになってしまう方が少なくありません。「ご冥福を祈り」の

冥福は「冥途の幸福」のことで、冥途は「暗黒の世界」のことです。浄土真宗では、故人は阿弥陀仏の浄土に生まれるのですが、その浄土の世界は暗黒とは正反對の光輝く世界です。光輝く浄土へ生まれることが前提となる浄土真宗の葬儀にもかかわらず、暗い冥途での幸福を祈ることは、どうみてもおかしいと言わなければなりません。

また、天国ではなく、真実の世界である浄土に生まれるのですから「昇天」「天国から」という言い方もふさわしくありません。浄土で仏となり、日夜、私たちを見守りくださる故人ですから「安らかに眠りください。」もふさわしくありません。やはり、「浄土に生まれられた」と仏となられた故人の心に触れるのが葬儀や一連の法要だと思えます。



クイズの答え・②

「月のことば」七月、八月

太陽の会では、館内入口・本堂入口に「月のことば」を掲載させて頂いております。お経は難しいと思われる方もいらつしやると思いますが、身近なお経として皆様のお心で味わい頂けたら幸いです。

【七月のことば】

雑毒(ぞうどく)の善を

もつて かの浄土に回向する

これ必ず不可なり

「浄土文類聚鈔」より

私の心の中にある「善」は いつも
自己中心という「毒」が混じっている。
その毒がある限り、私はどんなに
往生を願って お念仏をお唱えしても
願いは生涯 叶うことはありません。
気付かせていただけるよう、お念仏
いたします。

【八月のことば】

凡夫は すなわち

われらなり

「一念多念文意」より

自分は 愚かな者と知るからこそ
相手の心を 気遣い 和(なごみ)の
心を大切にできます。

気付かせて頂いた 仏さまの

み光に 報恩感謝いたします。

太陽の会 広島竜王院「盂蘭盆会法要」

この度、広島竜王院にて8月27日
(月)に盂蘭盆会法要が行われました。
ご導師からは、「この夏は、多くの地

域で豪雨災害の
被害を受けまし
た。多くの方が
不安を感じてお
られると思いま
す。これまで以
上にお念仏の輪
が広まりますよ



う身を粉にして
お念仏の教化に
努めていかなけ
ればならない。」
とお話した
きました。

浄土真宗 太陽の会

平成三十年行事予定



○本山及び西太陽霊園納骨合同追悼法要

開催日 10月16日(火) 11時より

○宗祖親鸞聖人御正忌報恩講法要

開催日 11月16日(金) 11時より

※ご法事など会場の予約を承っております。
込み合う時期がありますので、早めのご
予約をお願い致します。(法務担当者)

※この度の終活コーナーは都合により休載
とさせていただきます。